

山口県病院協会会報

2026 1月号 No.90

- 発行日 令和8年1月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 神徳 真也
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



年頭のご挨拶

会長 神徳 真也

明けましておめでとうございます。

山口県病院協会の皆様並びに県内医療関係団体の皆様におかれましては、恙なく新しい年を迎えたこととお喜び申し上げます。

国民の誰もが、いつでもどこでも良質な医療を受け、安心して暮らすことができる社会を支えているのは、命と健康を守る最後の砦である国民皆保険制度であり、医療機関の連携の下で地域ごとに必要とされる医療を適正に提供していく仕組みである地域医療提供体制は、地域創成の要です。しかし、この重要な基盤が、今、かつてない危機に直面しております。

長く続いたデフレからインフレへの急激な転換に伴う物価高騰、賃金上昇の波は、価格転嫁が許されない公定価格で運営される医療・福祉・介護分野の事業者を直撃し、経営の限界を遥かに超える状況を生み出しています。私たちは、この国の未来を担う医療従事者として、この現状を打破しなくてはなりません。国民の健康を守るという使命を胸に、地方を支える基盤としての医療提供体制を、さらに強固なものにしていかなくてはなりません。そのためには、病院の存続を確実にするための補正予算による緊急支援を確保することと共に、小泉改革から長く続いた医療費削減策から脱却して、経済・物価高騰を踏まえた適正な診療報酬改定が行われる体制づくりが必要不可欠です。医療・介護・福祉への投資は、国民の健康という最大の資産を守り、地域経済を活性化させ、ひいては日本全体の活力を取り戻すための未来への投資であると確信いたしております。

病院経営は極めて困難な状況にありますが、我々には、山口県の医療・介護・福祉サービス提供体制を堅持し、県民の健康と生活の安心、安全を守りぬかなくてならないという責務があります。そのために、山口県病院協会といたしましても、最大限の努力をしてまいりますことをお約束申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

CONTENTS (目次)

山口県病院協会会長挨拶	1 ページ
関係団体挨拶	2 ページ
協会役員コーナー	3 ページ
トピックスコーナー	4 ページ
病院スタッフコーナー	5 ページ
研修会報告	5 ~ 6 ページ
部会コーナー	6 ページ
諸会議報告	7 ページ
お知らせコーナー	7 ~ 8 ページ

年頭所感

～新しい時代に向かって～



山口県健康福祉部
部長

石丸 泰隆

明けましておめでとうございます。

新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、皆様にとりまして、本年が素晴らしい年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

また、平素から、本県の保健医療行政をはじめ県政全般にわたり、格別の御理解、御協力をいただいておりますことに対し、心から感謝申し上げます。

さて、人口減少の進行をはじめ、デジタル化や脱炭素化等の社会変革、自然災害の頻発化・激甚化など、県を取り巻く環境が大きく、急速に変化する中で、様々な社会変革の先にある本県の「新たな未来」を見据えて、県づくりを力強く前へ進めていかなければなりません。

こうした中、県では、県政運営の指針となる「やまぐち未来維新プラン」に基づいて、県民誰もが、山口ならではの豊かさと幸福を感じながら、未来に希望を持って暮らせる「安心で希望に満ちた山口県」の実現を目指し、関係団体の皆様と連携して、様々な取組を進めているところです。

とりわけ、医療は、県民が住み慣れた地域で安心して暮らし続ける上で欠かすことのできない、重要な社会基盤の一つであり、限られた医療資源の中で、地域にふさわしいバランスの取れた医療提供体制を構築することが重要であると考えています。

このため、「生涯を通じて健康で安心して暮らせる地域保健医療体制の確立」を基本目標に掲げた「第8次山口県保健医療計画」に基づき、「県民の安心・安全を支える保健医療体提供体制の構築」、「地域の保健医療を担う人材の確保と資質の向上」の二つの視点に沿って、総合的に施策を推進しています。

また、今年は、85歳以上の高齢者の増加や人口減少がさらに進む2040年とその先を見据え、全ての地域・世代の患者が、適切に医療・介護を受けながら生活できる医療提供体制の構築を目指すための「新たな地域医療構想」の策定に着手する、重要な年となります。

新たな構想については、医療機関の役割分担の明確化や在宅医療・介護との連携強化、医療DX、タスクシフト・シェア等の推進による生産性の向上など、県内各地域のあるべき医療提供体制の実現に資するよう、関係者の皆様の御意見をしっかりとお聞きしながら、策定を進めてまいります。

もとより、こうした保健医療施策を着実に進めていくためには、医療現場等の第一線で日々御活躍されている山口県病院協会の皆様方のお力添えが不可欠と考えておりますので、引き続き御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山口県病院協会の益々の御発展と、会員の皆様方の御健勝、御多幸を祈念して私の年頭のあいさつとさせていただきます。



協会役員コーナー

デトックス



周南市立新南陽市民病院
病院長
糖尿病センター長

松谷 朗

新年おめでとうございます。内科の患者さんをたくさん診ていると、やはりこの人は酒を控えるべきだと思う人が時々います。きちんとしたエビデンスがないくせに休肝日を作ることを勧め、自分でも実行しようと努力します。心の奥底では本当に意味があるのか、また高齢になって、禁酒するより、好きなことをして死んでも良いじゃないかと自問したりもします。検診の時、肝機能の数字が高くなっていて、そう言えば最近飲み会が続いているな、と振り返り、数字を正常化させるために、数日禁酒して再検査して、検診のデータを入れ替えてもらったことがあります。異常なデータを家内に見せると禁酒させされることを心配したからです。

そんなわけで、やはりなるべく週1回は禁酒を心掛けているのですが、当日は朝から少し憂鬱になるぐらい、やはり酒が好きなのですね。つい最近も、3日飲みが続いたとあとの禁酒予定日に、病院の仕事を済ませ、山口で別の仕事も済ませ、夜遅く帰宅して今日は無理だなと思いながら食卓につき、家内から今日は禁酒ねと言われ、一瞬悩んだがグッと堪えてノンアルを飲んだ翌朝、体が軽く、なんとなく達成感を感じる運転中、ふと、禁酒というのは、肝臓に害をなす毒素を洗い流すdetoxだけでなく、“酒ぐらい飲めばいいじゃん”、と言う有害な気持ちも洗い流すdetox効果もあるんだと気が付いた次第です。

このことを今後の患者へのアドバイスに使いたいと考えているのですが、いかがでしょうか。

救急の来院型小児オンライン診療の取り組み



一般社団法人岩国市医師会
岩国市医療センター医師会病院
病院長

茶川 治樹

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては新春を健やかにお迎えのことと心よりお慶び申しあげます。

さて、現在全国的に救急医療の維持が難しくなっています。岩国圏域の夜間の一次救急は、医師会病院にて医師会員が交代で担当する制度で成り立っています。しかし、開業医の高齢化や新たに開業する医師が少ないとから、医師会員の負担が大きくなっています。特に小児科は深刻で、毎日の夜間救急に対応することが困難になっています。

このような背景を踏まえ、岩国市と協議して、令和7年4月から対面診療と併用して、救急の来院型小児オンライン診療の取り組みを、週2回（木・金）開始しました。オンライン診療には大きく分けて「自宅型」と「来院型」の2つのモデルがありますが、当院が導入したのは来院型です。これは、患者が病院等に来院し、看護師の補助のもとで遠隔の医師が診療を行う方法です（D to P with N）。保護者の電子機器操作の負担が少なく、また看護師がいるため安心感も高く、より対面診療に近い診療体験を提供できる点が特長です。

対象患者は4歳以上とし、発熱患者が中心になることを想定しています。外科的処置を必要な患者は対象とせず、さらに痙攣、呼吸困難、アナフィラキシー等については、すぐに救急車を呼ぶようにしています。診療後3日以内に看護師が利用した児の保護者に電話連絡を行い、症状の経過や再受診の有無、診療への満足度などを確認し、安全性の検証や体制の改善に役立てています。

トピックスコーナー

会員病院からの寄稿～2030に向けて地域医療を守るために～



社会福祉法人恩賜財團済生会支部
山口県済生会下関総合病院
病院長

森 健治

新年あけましておめでとうございます。

この度は山口県病院協会新年のご挨拶に寄稿させて頂く機会を頂き、感謝いたします。山口県済生会下関総合病院院長の森 健治でございます。当院の歴史は大正13年下関診療所の開設に始まり、昨年100周年を超えるました。山口県最大の人口を抱える下関市の急性期病院を代表する施設であると自認し、責任を果たすべく全職員力を合わせて日々診療に邁進しています。済生会は明治44年に明治天皇が当時の桂首相に命じて、「恵まれない人々のために施薬救療し、済生の道を広めるように」との済生勅語を発令し設立された我が国最大の社会福祉法人で、現在6万5千人の職員を擁し我が国の医療・福祉に貢献している組織です。当院は地域に根差した地域住民のための病院で、基本理念は「心のかよう質の高い医療」を提供することです。

当院は平成17年（2005）に旧市内中心部から安岡の地に新築移転後、20年の月日が経過しました。急性期・高度急性期医療を主体として地域医療への貢献を第一に発展し、基幹型臨床研修指定病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、地域周産期母子医療センター、地域小児救急医療拠点病院等を標榜しています。名実ともに山口県西部地域の中心となる医療機関です。

令和6年（2024）の物価上昇に連動しない診療報酬改定や、デフレからインフレへの経済状況の中で、全国の多くの病院が赤字経営に陥り、その対応に日々苦慮しています。当院も安岡移転後、これまでにない厳しい経営環境に置かれています。病床削減はしていませんが、HCUの一部とGCUを一般病床へ変更するなど、苦しみながら対策を講じました。それでも急性期機能は当院の使命であり、病床の基本形態は一切の変更をすることなく維持しています。

下関地域は令和4年4月に国の地域医療構想重点支援区域に選定され、現在まで令和7年（2025）の地域医療構想策定に向けての話し合いを行ってきましたが、市内急性期を中心とした病院間の調整が難航し、大多数の医師の派遣元である山口大学との協議も進まず、まだまだ道半ばで、合意に達するのは困難な状況です。しかし下関市は県内の他地域に比べても人口減少が未曽有のスピードで進行しており、国の掲げる2040に向けての地域医療構想ではあまりに遅く、2030までに病床の整理、機能の集約化、再編を何とか進めていかないと共倒れになりかねません。本当に待ったなしの状況です。他の急性期医療を担う医療機関との難しい話し合いを重ね、生き残りをかけて高度な医療体制の提供を継続してまいります。加えて人を育て守っていくことも我々の使命であります。働き方改革の名のもと多職種協働でタスクシフト・シェアが進められていますが、人は財産であり、職員あっての組織であることを肝に銘じてまいります。

山口県病院協会の皆様方とともに、令和8年以降も山口県の医療にさらなる貢献ができるよう努力してまいります。暖かく見守っていただくとともに、今後もご支援のほどよろしくお願ひいたします。



病院スタッフコーナー

精神科病院の感染管理認定看護師として



医療法人社団青山会
リフレマえだ病院
看護主任

小野 あゆみ

新年あけましておめでとうございます。

当院は、岩国市玖珂町に昭和50年に設立された、精神科病床数108床の病院です。「患者さまひとりひとりにあわせたオーダーメイドの治療。それぞれの分野の専門家によるトータルケア。」を病院の方針として、病院内の部門、関連施設でさまざまな職種が日々協働しながら、患者さまの社会復帰に取り組んでいます。

私は看護師として当院に25年勤務し、その過程でさまざまな経験をさせていただきました。なかでも新型コロナウイルス感染症が流行していた頃のことは忘れることができません。精神科の患者さまは一般的に衛生管理能力が低く、閉鎖的環境という病院感染に対する脆弱性に加え、行動制限への協力が得られにくいといった特徴があります。先の見えない状況、目視出来ないものに対応する困難さ、科学的根拠に欠ける情報が一人歩きする恐ろしさを実感したことを、今でも覚えています。その経験から感染分野について学びたいと思いました。そこで病院長、看護部長をはじめとしたスタッフの理解と協力を得て、山口県で5年ぶりに開校した感染管理認定看護師教育課程で学ぶことができました。令和5年に感染管理認定看護師となり、現在地域での活動もさせていただいている。

これからも精神科病院で勤務する感染管理認定看護師として、その役割を担いながら、多職種と連携しながら患者さまの社会復帰に取り組んでいきます。

研修会報告

令和7年度 医療経営セミナー

令和7年9月25日（木）山口グランドホテルにおいて、賛助会員である株式会社西京銀行と共に「持続可能な病院経営戦略セミナー」と題し医療経営セミナーを開催、35名が参加した。

演題および講師は以下のとおり。

- 〈第一部〉 演題 「病床再編・経営安定化に向けた人材確保・定着策」
講師 株式会社川原経営総合センター 人事コンサルティング部
副部長 薄井 和人 氏
- 〈第二部〉 演題 「事例を交えた適正な病床機能・規模の検討」
講師 株式会社川原経営総合センター 病院コンサルティング部
奥野 みさき 氏



薄井 和人 氏



奥野 みさき 氏



研修風景

研修会報告

令和7年度 看護補助者・介護職員研修会

令和7年12月2日（火）かめ福オンプレイスにおいて、令和7年度看護補助者・介護職員研修会が開催され、53名が参加した。演題および講師は以下のとおり。

演 題 「職場におけるコミュニケーションスキルアップ研修」

講 師 有限会社ケイ・アンド・ワイ 人材育成部門代表 温品 富美子 氏



温品 富美子 氏



研修風景

部会コーナー

令和7年度 山口県病院協会事務長部会 総会および第1回研修会

令和7年10月29日（水）、山口グランドホテルにおいて、令和7年度山口県病院協会事務長部会の総会および第1回研修会が開催され、80名の参加があった。総会では役員改選が行われ、下記名簿の常任幹事を始めとする新役員が承認された。研修会の講師および演題は以下のとおり。

【常任幹事名簿】

部 会 長	嶋崎 隆郎	(都志見病院 事務長)
副部会長	橋本 雅徳	(周南記念病院 事務局長)
副部会長	室田 義文	(尾中病院 経営管理部長)
常任幹事	西原 寛之	(周東総合病院 事務長)
常任幹事	藤部 恭史	(小郡第一総合病院 事務長)
常任幹事	石川 和彦 ^{新任}	(脳神経筋センターよしみず病院 事務局長)

〈研修1〉 演 題 「適時調査における病院の入院基本料等に関する施設基準について」

講 師 中国四国厚生局山口事業所 係員 勝田 貴裕 氏

〈研修2〉 演 題 「持続可能な食事サービスの提供について」

講 師 日清医療食品株式会社中国支店 営業第2課 佐野 一平 氏



勝田 貴裕 氏



佐野 一平 氏



研修風景

諸会議報告

令和7年度 第3回理事会

日 時 令和7年10月15日（水）

開催方式 書面開催

【承認事項】

- 賛助会員の入会申し込みについて
 - サマンサジャパン株式会社
 - ネスレ日本株式会社ネスレヘルスカンパニー中國支店
- 各種後援等の依頼について
 - 令和7年度山口県肝疾患コーディネーター講習会の後援について
 - 日本医療マネジメント学会第24回山口県支部学術集会の名義後援のお願いについて

- リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025やまぐちのご講演について

【報告事項】

- 四県病院協会連絡協議会の提出議題について

令和7年度 第3回情報管理委員会

日 時 令和7年12月11日（木）15:30～16:30

開催方式 Zoom開催

【協議事項】

- 新年号の発行について
- 4月号の発行準備について
- その他



お知らせコーナー

「国民医療を守るために総決起大会」および「県民の健康と医療を考える会決起大会」の開催

11月20日、医療・介護を取り巻く環境が一層厳しさを増す中、現場の総意をより力強く中央に伝えていくため、「国民医療を守るために総決起大会」が各県のサテライト会場をメイン会場とWebでつないで開催され、当県では山口グランドホテルに医療・介護関係者150名が集いました。

また、当県では引き続き「県民の健康と医療を考える会決起大会」が開催されました。県議会に国に対する意見書の採択を要請する決議がなされ、当協会の神徳会長が音頭を取って頑張ろうコールで会を締めくくりました。



決起大会風景

令和7年度山口県救急医療功労者知事表彰（山口県病院協会推薦）

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される山口県救急医療功労者知事表彰は、今年度は次の病院に決定し、10月3日に山口県庁において伝達されました。おめでとうございます。

長門総合病院（病院長 村松 慶一）



山口県庁にて（前列右が村松病院長）

お知らせコーナー

令和7年度山口県選奨受賞（山口県病院協会推薦）

教育や芸術・文化・スポーツの振興、産業や福祉などに功績があった人をたたえる県選奨の表彰式が11月20日に山口県庁で行われ、保健衛生・環境功労部門において山口県病院協会 前副会長の 馬場良和 先生および常任理事の 玉木 英樹 先生が受賞されました。

馬場先生は、昭和56年に医師免許を取得して以来、医療・福祉・厚生事業に従事してこられました。平成7年に周東総合病院に入職後は、柳井医療圏の地域医療のみならず、日本農村医学会や山口県の各種協議会や山口県社会保険診療報酬請求書審査委員会においても役員や委員を務められるなど、その功績が評価され、受賞となりました。

玉木先生は、平成6年に医師免許取得後、平成13年に玉木病院の院長に就任。今日まで萩北浦医療圏の地域医療に貢献され、特に、山陰地方の潜水病医として海士・海女の医療管理に欠かせない存在となっています。萩市医師会や山口県の協議会、その他団体でも役職を務めてこられ、その功績が評価され受賞となりました。

心よりお祝い申し上げます。



山口県庁にて村岡知事と
(上段：馬場先生、下段：玉木先生)

会員の異動、変更など

【会員の変更、異動】

- ・周防病院
- ・周南病院

変更後
理事長・病院長 柿沼 進
理事長 青木 岳也
病院長 菊本 修

変更前
理事長 高野 光弘
病院長 大庭 幸生

【病院名の変更】

- ・まつもと整形救急外科病院 (旧 松本外科病院)

賛助会員の入会

- ・サマンサジャパン株式会社

- ・ネスレ日本株式会社 ネスレヘルスカンパニー中国支店

病院協会の主な行事予定

○1月15日	第4回理事会	(会場：かめ福オンプレイス)
○1月23日	四県病院協会連絡協議会	(会場：ホテルグランヴィア岡山)
○2月中旬	第1回総務委員会	(Web開催)
○3月上旬	第4回情報管理委員会	(Web開催)
○3月中旬	第5回理事会	(会場：未定)

編集後記

◆「国民医療を守るために総決起大会」開催の報告がありました。必要かつ適切な医療について、山口県からも力強いメッセージが伝えられ、インパクトを与えられたのではと思います◆昨年10月に発足した高市政権の掲げる物価高対策や積極財政と、連立与党との国民医療費の削減案の方向性が、われわれ医療・介護を提供するものにとってより実のあるものとなるよう祈るばかりです◆今までとは異なる診療報酬改定に、「真水」による思い切った緊急対策が望まれます。

(西田 一也)